

# 松山市立子規記念博物館

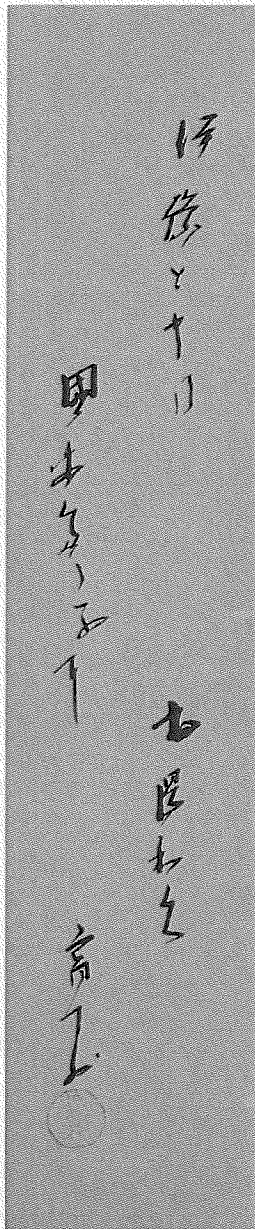
## 「特集 森盲天外 一生誕 150 周年」

森盲天外、本名恒太郎は余土村（現在の松山市余戸）の村長として、また子規派の俳人として活躍した人物です。

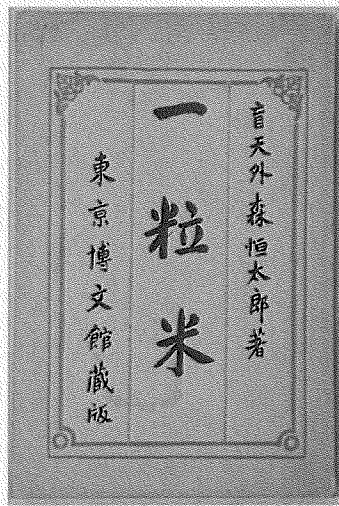
盲天外は三十三歳のころ、病気のため両眼とも失明してしまいます。自殺を考えるほど絶望した盲天外でしたが、一粒の米が人間の生命を支える大きな力となることを悟り、世のために自分の身を役立てようと決心します。

その後、余土村の村長となった盲天外は、村の改革と発展に力を尽くしました。また盲天外は、はじめ「孤鶴」と号して俳句を作り、後に子規から熱心に俳句を学びます。

今回の特集では、森盲天外の生誕一五〇周年を記念し、郷土の発展に尽くした盲天外の足跡をたどります。



森盲天外句「伊予と申す国あたゝかに出湯わく」



森盲天外著『一粒米』



森盲天外

### 【展示内容】

#### ○常設展示室3階 特集コーナー

盲天外自筆の俳句や書を展示します

会期：平成26年9月27日（土）～平成27年3月27日（金）

#### ○1階エントランス パネル展示

盲天外の生涯を紹介したパネルを展示します

会期：平成26年9月27日（土）～10月12日（日）

\*パネル展示は平成27年3月27日（金）まで市内小中学校・公共施設等への巡回を予定

【お問い合わせ】松山市道後公園 1-30 松山市立子規記念博物館 TEL：089-931-5566